

令和4年度研究発表会の開催と論文募集のお知らせ

令和4年度の研究発表会を下記の要領で開催いたしますので、論文発表をご希望の方はご応募ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。発表申し込みは学会ウェブサイト上の投稿申し込み専用フォームより行っていただきます。また、**参加申し込みは、事前申し込み・事前支払いを実施**します。詳しくは学会ウェブサイトに掲載しますので、ご確認ください。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催方法を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

期 日：令和4年10月13日（木）、14日（金）研究発表会、15日（土）見学会
会 場：関西大学 千里キャンパス 百周年記念会館（〒564-0073 大阪府吹田市山手町3丁目3-35）およびオンラインのハイブリッド開催を予定（Zoom Meetingを使用予定）。

応募締め切り：**令和4年5月13日（金）**

申し込み方法：**・原則として学会ウェブサイト研究発表会のページの投稿申し込み専用フォーム**よりお申し込みください。
・申し込み方法の詳細は、学会ウェブサイトに掲載しますので記入方法や注意事項をよく読んで申し込みを行ってください。
・**論文発表は1人1編とし、講演者は学会員であることとします。**なお、**申し込み時に非会員の場合には研究発表会までに会員登録手続きを済ませてください。**
・自由キーワードは1つ以上3つ以内まで記入してください。

特別セッション：令和4年度の研究発表会では、以下の3件の特別セッションを設定いたします。

特別セッション1「(仮題) 自然災害伝承碑による地域災害の応用地質とアウトリーチ」

提案者：稲垣秀輝（環境地質）、千田敬二（八州）

趣 旨：近年、自然災害が多発し大きな社会現象になっている。このため国土地理院は、自然災害伝承碑を地形図に掲載することを始めた。そして、日本応用地質学会にとっても自然災害に対する対応の仕方が大きな課題となっている。ところで、自然災害は気象条件違いや地形・地質の複雑な我が国にあって、地域性があることも知られている。災害地質研究部会では、「災害碑から学ぶ地域災害」を進めている。そして、自然災害伝承碑による地域災害の応用地質的対応やそのアウトリーチについて、広く会員に広げその研究を進めていくことで、全国に散らばっている会員を含めて地域災害を見直していく時期に来ている。そして、地域の自然災害に対する防災・減災を応用地質学的に深めることやその成果を一般にアウトリーチしていくことを提案しこの特別セッションを企画した。

特別セッション2「地質屋から Geologist へ！海外事情最前線～応用地質学の国際化とアジアの諸事情～」

提案者：長谷川信介（応用地質）、菊地輝行（JPOWER 設計コンサルタント）、千木良雅弘（深田地質研究所）

趣 旨：これからの応用地質学の技術者には、国内だけでなく海外での活躍を望みたい。そのためには、グローバルに展開される様々な先端技術を活用するとともに、現地で行われる地道な地表踏査、調査の基本技能、さらには相手国や国際的な技術視点が必要となる。海外での業務は、異なる文化を持つ技術者とのやり取りが必要となり、国内では当然と考えられることが、海外では浸透していない事が多い。他方、その逆のことも多い。そこで、これから海外で活躍を期待される若手に対し、海外での経験や異なる文化や考え方による知識を共有することが、今後の国内応用地質学への貢献の一つであると考え、これらの事例を公開し、広く会員に周知することを目的とする。

特別セッション3「(仮題) 理学と工学の融合における都市開発」

提案者：北田奈緒子（地域地盤環境研究所）

趣 旨：都市開発やインフラ整備に関して、工学的特徴のみでは解決できない問題が多く存在し、近年、地盤工学と応用理学の協働作業が必須と考える事案が増えている。主には地質リスクの事前検討やそれに伴うより合理的な調査や設計が必要となっている。関西では、関西空港事業や鉄道事業において、理学的な検討を基に設計施工される事例が多数ある。また、R3年にまとめられた

地盤工学会関東支部「地盤工学のあり方—応用地質学と地盤工学の協働を考える—研究委員会」における検討の報告も踏まえて、本セッションでは、地盤工学会の関係者も迎えてディスカッションを行う。

※特別セッション3の講演者は、提案者と学会事務局により選考いたしますので、会員の皆様からの発表の募集は行いません。

発表希望分野：下記分野から第1希望，第2希望をお選びください。プログラム作成時の参考にいたします。

「災害地質」，「土木地質」，「測量・計測」，「地下水」，「環境地質」，「地層処分」，「地形・地質一般」，「社会貢献」，特別セッション1「自然災害伝承碑」，特別セッション2「海外事情最前線」，特別セッション3「理学と工学の融合」

受付の確認：申し込み受付は**投稿申し込み専用フォーム**から申し込み内容が正しく送信された時点で受領とします。正しく送信が行われた場合、**連絡担当者宛に受付完了のメールが送信されます**ので、メールの着信を必ずご確認ください。

発表形式：申し込み時に、「口頭発表」もしくは「ポスター発表」の希望を明示してください。なお、十分な討論時間を確保するため、口頭発表の申し込みが多数の場合はポスター発表への発表形式の変更をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

論文の採否：論文発表の採否，発表形式の決定は，当学会事業企画委員会にご一任いただきます。**その結果を6月上旬までにお知らせ**し，原稿執筆の依頼をいたします。内容については，新規性・公平性のあるものとし，特定の技術等の宣伝と判断される場合などは不採用とすることもありますのでご注意ください。

発表方法：[口頭発表]

口頭発表はパワーポイントとZoom meeting（予定）を用いた発表方式とします。会場ではZoomで共有された発表スライドを，液晶プロジェクタで投影します。発表は現地でもオンラインでも実施可能です。口頭発表の持ち時間は原則，**発表時間12分，討論3分の計15分**です。なお，発表数が多い場合には，発表時間等の短縮を行う場合がありますので，予めご了解ください。

[ポスター発表]

ポスター発表者には，会場にポスター用のパネル（各発表者1枚，A0サイズを予定）を用意いたします。また，事前にポスターの電子ファイルを提出していただきます。提出いただいたポスターは，研究発表会参加者用ホームページに掲載し，オンライン参加者も閲覧できるようにいたします。なお，ポスター発表では，活発な討論のために発表時間帯（コアタイム）を設定いたします。コアタイムは，学会開催期間中に会場で開催予定ですが，新型コロナウイルス感染症の状況によっては開催方法を変更する場合がございます。

表彰制度：口頭発表およびポスター発表について，表彰制度を設ける予定です。

参加申し込み：原則，**事前申し込みと参加登録料の事前支払い**とします。また，**講演論文集の印刷は行わず，電子ファイル版の講演論文集を事前に配布**いたします。配布方法は研究発表会参加者用のウェブサイトにて講演論文集を掲載し，ダウンロードしていただく方式といたします。なお，研究発表会に参加される方は全員，参加登録料が必要になります。講演者の事前支払いが確認できない場合には，発表取り消しとして取り扱われる場合があります。参加申し込みは，2022年9月に開始予定です。参加申し込みの際には，「現地参加」もしくは「オンライン参加」のご予定を確認させていただきます。なお「オンライン参加」の場合は，会場で開催されるポスター発表のコアタイムには参加できません。あらかじめご了承ください。

参加登録料：参加登録料金には講演論文集（電子ファイル）のダウンロード権が含まれます。

正会員	8,000円	非会員	10,000円
学生会員	1,000円	非会員学生	3,000円

発表論文：口頭発表およびポスター発表ともに，当学会所定の原稿執筆要領に従った**原稿のPDFファイルを電子投稿システムにより提出**していただきます。電子投稿システムにつきましては，学会ウェブサイト内で追ってお知らせいたします。**原稿はA4版，和文または英文2ページ**とします。和文の場合は英文表題が必要です。詳細は原稿作成要領および原稿フォーマットを確認してください。

原稿提出期限：令和4年8月19日（金）

※研究発表会の情報は，Facebook，学会ニューズリスト（NL），ウェブサイト上でもお知らせいたします。